

あけまして

おめでとーびーぎいいます



仙北市議会議員 青柳宗五郎

かつて、一般的には、議員に対するイメージとして、執行部に住民の声を伝える力が重視されていたように思われます。

道路や橋の整備など、地域における生活基盤を向上させることが、議員評価の基準とされていたのではないのでしょうか。

しかし、インターネット・SNS等の情報ネットワークの発達によって、議員を経由しなくても、自分の思いを市長に伝えることができるようになりました。こうした時流は「住民の声を執行部に次ぐ」という従来からの議員の役割の一部が弱められる効果をもたらしているとも言えます。

これからの議会には、執行部への批判・監視だけでは不十分で、まちづくりに対し「より専門的な知識」で、市の経営に参画する力量が問われています。例えば、地域社会の一点だけにとらわれず、全体像を見据えた多様な視点から、分析・検討できる能力も、その一つと考えます。

昨年の3月には、公共施設等の総合管理計画の個別計画が策定されました。この計画は、要するに「現在、市が有する300公共施設（道路や橋梁などインフラなどは除く）のうち、将来的に約35%を縮減する」ためのアクションプログラムです。

この背景には、いわゆる【平成の大合併】による類似施設の非効率性、あるいは同時期に到来する老朽化に伴う改修費用の増大などが挙げられています。

大切なことは、新たな公共施設と、既存の公共施設とのバランスです。これまでの施設を統廃合することには、少なからず感情的に陥りやすくなります。

しかし、これらの膨大な管理経費が、結果として、全体の市民サービスを圧迫することになる事態は、避けなければいけません。苦渋の選択が強いられる大きな課題と捉えています。

市の資源には限りがありますが、一方で市の課題は無限とも言えます。まずは、こうした課題を、市民の皆様と執行部とが、的確に共有するために、身を粉にして取り組む必要があります。

「平成」最後の年頭にあたり、こうした政策課題をしっかりと議論し、【前進する議会】を目指したいと思います。

本年も、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

平成31年1月吉日